令和5年度 県立那珂湊高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	豊かな教養と人間性を育み、地域の未来を担う人材を育成する学校 ①何事にもチャレンジする精神の涵養 ②創造力・企画力・説明力の育成 ③世界を視野に地域貢献 ④21世紀型スキルの育成					
	【21世紀型スキル：これからの変化の激しい社会に主体性を持って参画し、自ら課題を見つけ、創造的にその課題を解決できる能力等のこと】					
	三つの方針	具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○豊かな教養と人間を身につけ、地域の未来を担う人材 ①何事にもチャレンジする人材 ②21世紀スキルを身につけ、世界を視野に地域貢献できる人材 ③創造力・企画力・説明力を身につけた人材		B	B	各分掌、学年、教科等が組織として実効性のある教育活動を実施できるよう、育成すべき資質・能力をより具体的に意識できるようにする
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①主体的な進路学習や勤労の貴さ、創造の喜びを体得させ、地域産業に寄与できる社会人を育成する。 ②部活動や学校行事等の活性化を図り、総合的な人間力を向上させる。 ③充実した学習環境を提供するとともに探究的な学びを推進し、生徒が自主的に学習に取り組む態度を育成する。		B		卒業後の生き方を見据えた着実な教育課程の実施を推進する。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○やりたいことを見つけて挑戦しようとする生徒		A		対外的な広報、中学生やその保護者への周知・理解をより丁寧に行う。
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
○成果 ・学力向上推進総合事業における授業改善の取組により、わかる授業を展開している。 ・校内研修等を通して、ICTを活用した授業への取組が活発化している。		実践的な学びの深化	(1) 基盤としての基礎学力を定着させる。 ・授業時間の確保：行事の精選と実施方法の見直し、チャイム授業開始 ・多様な学習形態の研究と実践：少人数指導、T T、I C T活用等 ・家庭学習時間の確保：適切な学習課題等 (2) 大学、企業、地域等と連携した取り組みを強化する。 (3) 体験活動や課題研究等の全員実施(参加)を推進する。		B	
		特別活動の活性化	(1) 部活動・生徒会活動等への積極的参加を促し、生徒主体の活動を推進する。 (2) 適切な人間関係の構築とコミュニケーション能力の向上を図る。 (3) 家庭、地域と連携・協力し、開かれた学校づくりをする。 (4) キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施していく。		B	
		体系的な進路指導	(1) 3年間を見通した計画的な進路指導により、進路意識を高揚させる。 (2) 社会体験等を通して、職業観・勤労観を育成する。 (3) 個別指導等を充実させ、多様な進路希望に対応する。		B	
		生徒指導の充実	(1) 生徒一人一人の自己有用感を高揚させる授業づくりや集団づくりをする。 (2) 登校指導や校内見回り等により、問題行動の未然防止に努める。 (3) 保護者との連携を図り、より良い生活習慣や規範意識を身に付けさせる。 (4) 「公共」の授業や特別活動を要として、教育活動全体を通して道徳心を涵養する。		B	
		授業改善の推進	(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。 ・教員が生徒による授業評価(中間評価)等をもとに、授業改善・検討を実施する。「生徒による授業評価(最終評価)」の各項目が「3.0以上」(学校全体の平均)とする。		B	
		働き方改革の推進	(1) 校務の精選と役割の明確化を図り、勤務態勢の適正化に努める。		B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教	国語	基礎的な国語能力の向上を図る	漢字学習の時間を積極的に設け、小テストや定期テスト、漢字検定試験を通して漢字の基礎力を高める。	A	図書館の活用を生徒に浸透させていきたい。読書の時間や漢字・語句調べなど、図書館の有効活用を考え、生徒が気軽に図書館を利用する環境を作っていく。
		学習習慣を定着させる	授業・ワーク・小テスト・定期考査を連動させ、知識の活用や文脈の捉え方を熟成させていく。	A	
			ノート・プリント・問題集を定期的に点検し、学習の習慣を身に付けさせる。	A	
		進路目標の実現に向けた国語力の向上を図るための授業改善	読書の時間を設け、生涯にわたって読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	B	
			新聞記事を活用し、社会の出来事に対する自らの考えを深めさせる機会を増やす。	B	
	地歴・公民	基礎学力の向上を図る	進路対策用ワークや進路に対応した作文・小論文の指導を行うなど、進路に直結する国語力向上のための機会を充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着及び向上に向けた授業内容の精選。 ICTの効果的な活用法の模索。
		基本を理解させ生徒の興味・関心を喚起する授業を目指す	中学時の学習内容とその習得の度合いを確認し、知識や理解の程度を把握しながら、基礎学力の定着を重視した授業を展開する。	B	
	数学	基礎学力の定着を図る	視聴覚教材の活用や、授業における言語活動等を通して、生徒の興味・関心を喚起しつつ、思考力と表現力を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に合わせた問題演習の行い方の検討。 ICTを併用しながらのグラフや図形の指導方法の模索。
		授業指導技術の向上を図る	放課後の課外やテスト前の補講を利用して反復練習を行い、進学・就職試験に対応できる基礎学力を定着させる。授業においては習熟度別学習を行い、基礎的な計算能力を身に付けさせる。	B	
	理科	基礎学力の向上を図る	グラフや図形など視覚的に捉えさせる学習内容において、ICTを用いて授業を行いながらICTの活用方法を学び、授業力の向上を図る。chrome bookを積極的に活用させられるよう、活動内容を工夫していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが問題を見出し、その解決に向けて手立てを考える、という機会が少なかった。事実を基にして考えを深める機会を増やすため、実験観察を通して学習内容と日常生活や社会との結びつきを実感できるような場を設定する。 毎授業の振り返りを習慣化できた。来年度は、教員間での共有を細かにし、授業方法や内容をブラッシュアップしていく。
自ら問いを立てられる力を育む		日常生活や社会との関連を意識させる題材設定を行い、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感させる。互いに教え合う場や、小テストなど獲得した知識を活用する場を与え、知識の定着・理解の深化を図る。	C		
授業改善に向けた取組		観察や発問などから自然の事物・現象の中に問題を見出す機会を設ける。問題や疑問を解決するために見通しをもった観察・実験を行わせる。実験結果や資料等から考えられることを、グループでの話し合いなどを通して導き出し、表現する場を設定する。	B		
英	基礎学力の向上を図る	授業での自己の変容を記録する場面を設け、粘り強さと学習調整力を向上させる。教師自身も生徒の振り返りや反応などから授業の良い点と改善点を把握していく。教員間で授業の方法や内容、過去の考査の内容などを共有して、教員の授業の習熟に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> 英検3級受験対象者の欠席を減らす点が課題。その一方で準2級合格者が出ており、より上級を目指す生徒に対して支援していく。 1・2年に関しては、週に1回程度ALTの授業を実施、異文化理解につなげているが、生徒をより積極的に取り組ませる工夫が課題。 	
		コミュニケーション活動に重点を置きながら、既習内容の復習を取り入れた授業展開を行う。	B		
		実用英語技能検3級以上の受験を促し、個別指導や課外等での受験支援を行う。	B		
	異文化理解を深める	ALTの積極的活用、ブリティッシュ研修や、ハワイ研修の積極的参加を促し、異文化理解を深める。	A		
	個々に応じた学習支援を行う	課外や個別指導を行うとともに、授業内ではワークシートを工夫することで生徒の理解を深めさせる。	B		
	定期的な課題出題を行うことで、家庭学習の習慣を身に付けさせ、生徒の学習習慣の状況を把握する。	B			

語	授業改善に取り組む	授業の進め方や内容、教材などを共有したり、授業時に行っている生徒の振り返り等を活用したりしながら授業力の向上を図る。	B	B	・生徒の授業振り返り実施、教材、クラス間の状況など共有してさらに授業力向上を図ることが課題。	
	保	学びに向かう力・人間性の育成	毎時の集団行動を通して、集団の中の一人としての自覚を持たせる。また、ルールやマナーを大切にするとともに、健康・安全を確保し、主体的に授業に取り組ませる。		A	B
	健	体力・技能の向上	生徒の体力・技能のレベルに応じて、各種目の学習方法の工夫改善に努め、体力・技能の向上を図る。		B	
	体	心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成	学習形態・教材の工夫やICT機器を活用し、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、健康についての自他や社会の課題を発見し、解決に向けて考え、判断する能力を育成する。		A	
育	授業改善に向けた取組	授業の進め方や内容、教材などを共有したり、授業時に行っている生徒の振り返り等を活用したりしながら授業力の向上を図る。	B			
家	基礎知識・基礎実践力の定着	自分のライフコースについて考え、自立のために必要な知識と技術を習得し、健康で快適な生活を営む力を身につける。	B	B	・技術の習得のために十分な実習時間を確保することが難しい。ICTを活用し、生徒が主体的に学ぶことが出来る環境を整備していく必要がある。 ・授業の振り返りを通して、学びの定着と生活へのフィードバックを促したい。	
	実習への主体的かつ意欲的な取組	調理や製作における作業過程の拡大や動画等の活用など効果的なICTの活用をし、実習や製作に主体的に取り組む、生活に密着した技術と知識の習得を目指す。	A			
	意思決定能力や課題解決能力の育成を図るための授業改善	18歳成人を踏まえ、適切に行動できる消費者となるための知識および意思決定能力を習得する。また、ホームプロジェクトを通して、身近な課題解決をする実践力を身につける。さらに発表をすることで言語活動の活発化を図る。	B			
音	知識・技能の習得	音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽表現上の働きと関わらせて理解できるようにする。	B	B	・全体的に主体的に取り組む、生徒同士が教え合いながら器楽活動ができた。実技の奏法については事前に奏法を録画したものを授業時に提示したことにより、効果的な学習に結びついた。 ・来年度は個人のICTをより効果的に活用した授業を展開したい。	
		曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりや音楽文化の多様性について理解させる。	B			
	思考力・判断力・表現力等の育成	知識や技能を生かしたりしながら歌唱や器楽の音楽表現を創意工夫して演奏表現ができるようにする。	B			
		楽曲の背景や作曲者の思いや意図を感じ取りながら楽曲を深く味わって聴くことができるようにする。				
楽	学びに向かう力・人間性の涵養	音楽の学習に主体的に取り組むことができるよう、生徒同士の考えを交流し、共感・共有しながら、音楽表現や鑑賞の学習の質を高められるようにする。	A			
	授業改善に向けた取組	授業の終末では学んだことを言葉で確認し合うだけでなく、実際に学んだことを生かして「歌う」「演奏する」「聴く」等の振り返る活動を行い、学びの達成感などを味わわせる。	B			
書	書写能力の向上を図る	小・中学校国語科「書写」で学んだ実用書との関連性について理解し、美しく読みやすい文字を安定して書ける力を養う。	A	A	・ICTをより積極的に活用し、効率よく理解しやすい授業の展開に努めた。 ・用具・用材・用筆・運筆の特徴とその違いについて、理解できるよう工夫し、幅広い	
	表現の能力を高める	用具・用材・用筆・運筆の特徴とその違いについて理解し、幅広い表現方法を身につけさせる。	B			
		日本・中国の古典について、理論(歴史的背景・成立経緯・書人・書写内容等)及び技術(古典の特徴・運筆時のポイント)を体系的に理解させ、臨書作品の制作を行いその成果をあらわす。	B			

科	道		古典学習で身につけた基礎をもとに、紙面構成や用具用材、表現方法など、創作作品の制作を通してその成果を表す。	A	表現方法を身につけさせることができた。 ・教科横断的な授業を展開し、生徒の興味関心や学習意欲の向上に今後も努める。	
		鑑賞の能力を高める	書道作品の鑑賞方法について説明を行い、基本的なマナーを習得させる。	A		
		授業改善を図る	鑑賞会を行い、作品を観る力を養う。	B		
			主体的・対話的で深い学びを定着させるため、体験型授業、ICT活用、教科横断的な学習等を積極的に取り入れ、よりよい授業に向けた取り組みを行う。	A		
	情報	情報モラル、課題の発見・解決力の育成	生徒が各1台所有している、スマートフォンやChromebookなどネットワーク機器の適切な利用方法について学習するとともに、情報モラルの理解や課題の発見・解決など、情報社会に生きる力を身につけさせる。	A	A	・プログラミングの学習等に関しては、茨城県教育委員会の情報科社会人講師活用プログラムや「情報I」オンライン学習サービスなどを活用した。次年度も機会があれば活用したい。Chromebookを毎時間の授業にいかに関活用するか次年度以降も検討していきたい。
		情報活用実践力の育成	Windows MacOS Chromebookなどの複数の機器や各種ソフトウェアの活用能力を育成するとともに、Google for Educationの各種ツールを活用した授業を実践する。	B		
		学習内容の充実	プログラミング、モデル化とシミュレーション、ネットワークなどの学習を充実させるとともに、生徒が理解できるように授業改善に努める。	A		
	商業	学習方法の理解を図る	「学ぶことの意義」を理解させることを最優先とし、協働学習、個別最適化学習を提供することでチャレンジできるための土台を継続的に築く。	A	A	チャレンジする環境づくりを組織的に考え、さらに多くの挑戦する生徒の育成に努めたい。体験型の授業は「規律性」から成果を求めるのではなく、「主体性」を大切に、その上で「規律」「ルール」の大切さを理解させることで、挑戦する意欲をかき立てるような場づくりをしていきたい。「学ぶこと」＝社会人基礎力の意識付けが必要である。
		授業改善を図る	教科全体として個別最適化学習、授業改善を図る。また、各種団体の研究会等へ積極的に参加し、情報等を共有し、生徒と共に「何のためにやるのか」を明確にする。	A		
		授業時間の確保に努める	商業科目の授業填補は商業科で行うなど、授業確保に努める。	A		
		体験型授業を推進する	各科目において体験型学習を推進し、生徒に失敗できる環境作りを継続する。生徒たちの「こんなことがやってみたい」という声を拾い上げる。	A		
		地域貢献等への積極的な参加を図る	専門性を活かした創造力、企画力・説明力を育成し、継続して地域貢献や地域協働学習を視野に入れ、授業を展開する。	A		
広報活動を充実させる		毎年、実践報告書を発行し、中学生体験入学及び企業訪問などで商業学科における活動内容について広く情報提供を行う。 学校マーケティングを意識し、生徒が取材活動を行ない、企画、情報発信力を身につけさせるよう努め、生徒による情報発信SNS等を活用した広報活動を実施する。	A			

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	授業時間の確保と学習評価法の研究	出張・年休等における授業時間の振り替えを徹底し、填補を教科内で行うことにより、授業時間の確保と授業の質を向上させる。また、「チャイム開始」「チャイム終了」を厳守した授業を行う。本校の実態に応じた観点別評価法について研究を継続する。	B	B ・教育課程、観点別評価、定期考査の時期を再検討する。 ・チャイムと同時に着席しない、授業準備のできない生徒への対応を検討する。 ・中学生・保護者向けの学校説明会や公開授業は計画的に実施したが、Webページの更新が不十分であったので更新方法を検討する。 ・Googleドライブやクラウド型校務支援システムの活用で各種データ共有化を図ることができた。更に業務改善するように努める。 ・個人用端末の更なる活用を検討する。
	広報活動の充実	学校案内やWebページ等の広報の工夫改善を行う。中学生・保護者・地域住民等への広報活動を充実させる。	C	
	学習指導法の工夫改善	新学習指導要領に合わせた年間指導計画の充実を図る。	B	
		教員の研修会・公開授業のほか、保護者・地域住民に対する公開授業を計画し、指導法の工夫改善に努める。	C	
		生徒個人所有のChromebookやスマートフォンや本校所有の情報機器の効果的な活用法について研究し、すべての授業で情報機器を活用する。	B	
	オンラインや情報機器を活用した働き方改革	Googleドライブの共有、職員室の大型モニタによる職員の情報共有、クラウド型校務支援システムの導入、ペーパーレスの職員会議の実施など、ICT機器を活用した業務改善を実施する。	A	
	校内の情報環境整備	校内のネットワーク、情報機器の整備・保守を円滑に行い、全生徒・全教職員を対象にBYOD(個人所有端末の持込)ができる環境づくりを推進する。	B	
	緊急事態への対応	コロナ感染や気象障害などの緊急事態に生徒や保護者に情報が円滑に伝わる体制づくりを推進する。	B	
	図書室の環境整備	生徒の学習や読書のできる環境整備を図る。また、校内に居場所のない生徒が利用しやすい雰囲気作りを推進する。生徒・職員のリクエストに応じた図書の購入計画を立てる。	B	
図書委員会の活動の活性化	図書委員会の活動を通じて、図書の貸出・返却がスムーズに行える体制づくりを行うとともに、生徒自ら、図書案内や図書室の環境整備が行えるように働きかける。さらに、他校の図書委員会や地域との交流も推進する。	B		
視聴覚室の整備	視聴覚室の整備・保守を行い、生徒・教員が利用しやすい教室づくりを行うとともに、映像ソフトウェアの選定・購入計画を立てる。	C		
生 徒 指 導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の涵養	遅刻カードの活用、チャイム着席指導等を通して、時間を守る習慣を身に付けさせる。	C	C ・時間を意識した行動の定着に向けた取組を検討する。 ・いじめの未然防止に向けた対策。生徒への働きかけ。 ・正しいSNS利用の方法を随時発信する。 ・ヘルメット着用数の増加に向けた取組を検討する。
		登校指導や頭髪服装指導、職員室入室時の礼法等を通して、挨拶・服装・言葉遣い等のマナーの向上に努める。	B	
	問題行動の未然防止・早期発見	本校のいじめ防止マニュアルに沿い、情報の共有といじめの未然防止・早期解決に努める。	C	
		スマートフォン等の正しい使用・マナーについて指導し、SNS上のトラブルや事故を未然に防ぐ知識と環境づくりを進める。	C	
交通安全教育の推進	交通安全講話や自転車安全点検及び街頭見守りや交通安全キャンペーン等を通じて交通安全に関する意識の向上を図る。	B		
進 路 指 導	進路学習の推進	進路ガイダンスや学校見学、インターンシップ等を計画的に実施して、生徒が自己の進路について考える機会や場を充実させる。 また、基礎学力診断テストを利用して、進路実現に必要な国数英の学力を身に付けさせる。	B	B ・年間計画に沿って、各学年と連携して進路行事を実施することができた。次年度に向けて、早期から進路目標意識を高めさせるために、3年間を通じたキャリア教育プランを研究し続けていく。
	進学支援の充実	早期から学校研究を行い、自分に合った学校に進学できるように面談等の指導を行う。 大学・短大・看護医療系進学希望者を対象に模擬試験を実施し、受験への意識付けを図る。あわせて奨学金制度等について、保護者への情報提供を行う。	B	

	求人開拓の継続	積極的に企業訪問を行い、本校への求人を継続してもらう。また、外部団体と積極的に交流して、新規立地企業や将来有望な産業についての情報収集や研究を行う。	B		
--	---------	--	---	--	--

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動や各行事で生徒主体の活動を推進する。	A	B 教員数の減少に伴い、部活動体制の見直しを行わなくてはならない。行事の動き出しが遅く周知が不徹底になった場面もあったので、早めに計画を周知し、学校全体で連携しながら動ける体制を作る。
	学校行事の充実	コロナの経験を活かし、時代や環境にあった行事内容を再構築していく。	A	
	部活動の活性化	部活動を通じて生徒の心身の成長を促し、より良い将来に結びつけられるよう、環境や運営体制を見直す。	B	
		部活動顧問が連携して指導にあたり、弾力的な指導体制が取れるようにする。	B	
	キャリア・パスポートの有効活用	キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施する。	B	
保健厚生	学習環境の整備	整備委員会の活動を活性化し、全生徒による清掃を徹底させ、校内の美化に努める。	A	A 緊急時メールについては、保健厚生部として利用することはなかった。次年度以降、ブレンドの方が、保護者との連絡を取りやすいこともあり、緊急時の連絡の取り方を切り替えていく予定である。
	災害への迅速な対応	緊急時メールを確立させ、保護者等との連絡網が緊急時に機能できるようにしておく。総合防災訓練を行い、火災や地震、原子力災害時の人的・物的被害を軽減できるようにする。	A	
	健康教育の充実	各学年に性教育・禁煙教育・がん教育の講話、応急手当講習会を実施し、身体の大切さを認識させ、健康への意識を向上させる。	A	
	教育相談体制の充実	校内で教育相談を実施するとともに、多様な問題を抱える生徒への対応を図るため、専門家の支援による教育相談体制を充実させる。	A	
渉外	生徒が充実した学校生活を送れるような協力体制作り	新しいPTA事業のあり方を考え、生徒がより充実した学校生活を送れるような体制作りに努める。そのために、保護者とのコミュニケーションを図りながら、相互の理解を深める活動を行う。	B	B PTA役員を中心に、役員会、研修会などの参加を通してコミュニケーションを図り、さらに良好な関係を築いていくこと。また、PTA組織については、実態と合っていない部分もあり、今後、保護者との連携を図りながら改善していくことが課題。
		さわやかマナアップ運動などの挨拶運動を実施することによって、生徒を見守る保護者と教員の体制を充実させる。	B	
	保護者のPTA活動への参加促進	広報・研修・生徒指導の各委員会や支部会の運営等、委員長や評議委員を中心に保護者が興味や関心を持って取り組める活動を工夫する。支部組織である体制を強みに、地域のつながりを大切にしながら、一人でも多くの参加を促す。	C	
	地域や近隣の学校との協力・連携の強化を図る。	学校を取り巻く教育的環境整備・危機管理体制を強化する。	B	

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
1 学年	高校生としての自覚と基本的生活習慣の確立	家庭との連携を密にし、生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう支援する。	A	B ・人間関係を構築していく過程で、コミュニケーションがやや不足していると感じた。次年度、まずクラス替えがあるので、校外学習や学校行事、クラス内企画などを通して、他者を尊重し、生徒1人1人の成長を支援していく。
		学校の規律を守り、集団生活におけるマナーを身につけるための支援をする。	B	
	基礎学力の定着と課題解決能力の育成	家庭学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	B	
		自発的学習に向かうよう、ICT 機器等を活用した環境作りを行う。	A	
		進路ガイダンスや就職セミナー、オープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路情報を主体的に収集する態度を育成する。	A	
	互いに認め合い、高め合う集団の育成	授業や個人面談などを通じて、進路目標を持てるような指導を持てるような指導をする。	B	
豊かな人間関係作りができるよう、ホームルーム活動や学年間の交流を密にし、思いやりや仲間意識を育てる。		B		
2 学年	基礎学力の定着	自ら考え行動できる主体性を身につけさせる。	B	B ・授業を大切にし、学ぶ姿勢を育てるべく各担当者が努めているが、休み時間との切り替えが難しい場合がある。はじめのある生活態度の定着を図りたい。 ・クリーン作戦や進路学習 Day 等外部と関わる活動を通して、各自が将来について考える機会を持つことができた。今後はその経験をいかして、社会の中での自らの役割等について考えを広げられるよう支援していきたい。 ・女子生徒の防寒対策について、手立てを考えたい。
		授業を大切にし、学ぶ姿勢を育てるとともに基礎学力の定着を図る。	B	
		各教科から出る課題に対して前向きに取り組み、提出期限を厳守できる習慣を身に付ける。	B	
	基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え行動できる生徒の育成	模試や検定などを積極的に活用して、個々の実力を伸ばす。	B	
		家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣を確立するための支援をする。	B	
		学校の規律を守り、TPO をわきまえた身だしなみや言葉遣いができるようにする。	B	
	進路を見据えた学習への取り組み	クラス、学年をチームとして捉え、他者を尊重し、互いの不足を補い合いながら成長できる姿勢をもつ。	B	
		社会の現実に触れる機会をとおり、将来の自分を見据えた明確な目標設定をする。	A	
3 学年	生徒全員の進路希望の実現	個人面談等をとおして、生徒の進路希望実現のための支援をする。オープンキャンパスへの参加や模擬試験、検定試験などへの積極的なチャレンジをさせる。	A	A ・担任と生徒との面談を密にしたことにより、進路希望から具体的な活動まできめ細かい指導をすることができた。よって、進学・就職も2名を除く全員の進路先を決めることができた。 ・就職は希望する会社の見学を希望の数だけ見学できたことにより、自分のやりたい仕事を絞ることができた。 ・今年度から履歴書の作成がパソコン入力可となったが、手書きという会社もあるため、事前の確認が必要である。 ・四年制大学を一般受験する生徒には年度初めから課外を実施し、個人の対策を練ることが重要である。
		生徒との面談を密に行い、進路希望を明確にする。学年全体で共有し、学年スタッフが協力・連携できる体制を整える。	A	
		進学希望者は2校以上のオープンキャンパス、就職希望者には2社以上の会社見学に参加させ、比較・検討した上で進学先・就職先を決めさせる。	A	
	社会人としての教養を身に付けさせる	面接試験を受検する生徒に対して、担任・副担任で3回以上、学年で2回以上の面接対策を行う。	A	
		テーブルマナー教室を実施し、外食時のマナーを身に付けさせる。	A	
		外部講師を招いて名刺交換の仕方や電話の受け方の指導を実施し、社会人として身に付けるべき礼儀を身に付けさせる。	A	
働き方改革を推進する	スーツの着こなし方やメイク方法についての講座を開設し、社会人としての身だしなみの整え方を身に付けさせる。	A		
働き方改革を推進する	生徒に対して、時間内・期限内で提出書類等を仕上げるよう指導し、放課後遅くまで指導することがないようにする（勤務時間の超過が月45時間、年360時間以内になるようにする）	B		

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない